

(平成26年12月16日)

## 第9回 赤松小三郎研究会のご報告

日時 : H26. 12. 16 (火) 18:30~20:30  
場所 : 東京・文京シビックセンター 5F 会議室A  
出席者 : 17名

### < 配布資料 >

- (資料1)「松平家日乗(古文書)」関連資料 <大橋邦夫さん作成>
- (資料2)赤松小三郎と横井小楠 <滝澤進さん作成>

### < 内容 >

#### 1 東郷えりかさん ご挨拶

- ・翻訳者である東郷えりかさんは、門倉伝次郎(注)の玄孫にあたり、「幕末に西洋馬術を習った高祖父」という調査報告を作成されています。  
(注)赤松小三郎より早く英国騎兵大尉アプリンから西洋流馬術を学んだ上田藩士

#### 2 上田藩(松平家)の日記「日乗」(にちじょう)の一部よりの古文書解説~大橋邦夫さん(60期)

- ・「松平家日乗」(古文書)は上田藩主松平家に伝わった、幕府等への提出文書と幕府等からの回答文書を留めた「日記」で、天明元年(1781年)から明治4年(1871年)までの全30冊、総点数1400点、現在上田市立博物館が収蔵。
- ・今回は、幕府が上田藩に対して行った赤松小三郎の開成所(江戸幕府が設立した蘭・英・仏・独・露などの洋学の研究・教育機関)教授手伝の出仕要請を、上田藩が拒否した箇所(箇所)の解説。
- ・大橋さんによると、この「日乗」は松平家の公式な日記なので丁寧に書かれているため解読は比較的容易、これが個人の日記や手紙だと解読は難しくなるとのこと。また、出席者から「古文書解読の勉強法は?」との質問があり、「独学はなかなか大変だが、推薦本としては『江戸時代&古文書 虎の巻』(柏書房)+古文書辞典」との回答有り。

#### 3 赤松小三郎と横井小楠~滝澤進さん(61期)

- ・「横井小楠」(よこいしょうなん)~文化6年(1809年)8月生まれ(赤松より22歳年上)の熊本藩士で儒学者、政治家。熊本藩での藩政改革は失敗するが、その後政治総裁職松平春嶽の顧問などとして数々の建言(「国是七条」・「国是十二条」・「大政奉還後の親政についての意見書」等)を行い、幕末及び明治維新政府の政治に大きな影響を与えた。明治維新後に新政府議政官参与として出仕するが、明治2年(1869年)1月に暗殺される(享年61歳)。

- ・横井小楠の基本的な政治思想（「公武合体」・赤松の言葉では「幕薩一和」、「天皇の下の議会政治構想」等）は赤松小三郎とかなり近かった。議会政治については、赤松がヨーロッパの議会政治を念頭に、下院については身分を問わず選ばれた者から構成される二院制議会の構想を他に先駆けて具体的かつ体系的に打ち出しており、その思想には顕著な「先進性」「先見性」が認められる。
- ・赤松小三郎との大きな違いとしては、赤松が若くして命を奪われてしまったこともあり政治に対しては建言や働きかけにとどまっていたと考えられることに対し、横井は春嶽のブレーンとして、また勝海舟、坂本龍馬との交友などを通じて幕末政治に大きな影響を及ぼすとともに、弟子の由利公正や井上毅等を通じて明治国家の基本的なあり方にも大きな影響を及ぼした。（赤松の建言は、山本覚馬の管見などを通じて明治政府へ政治的影響を及ぼした。）

<丸山瑛一会長からの連絡>

- ・上田の赤松小三郎記念館は、例年通り11月から3月まで閉館中です。

以上

赤松小三郎研究会  
事務局 荻原 貴（79期）